

平成30年度防災教育モデル実践事業報告書

学校名 豊後大野市立緒方小学校

I 学校の情報

1 学校規模

緒方小学校：学級数7 児童数136人 職員数19人

2 分掌の位置づけ

防災教育コーディネーターを配置

3 地域環境

緒方町は緒方川や大野川をはじめ、町内至る所にある井路があり、水が豊かな分、大雨等では河川の氾濫や土砂災害が起こるなど、防災に係る体制整備が求められる地域である。

II 本事業の研究テーマ

「主体的に判断し、自ら進んで行動できる児童・生徒の育成」
～防災の視点を取り入れた教育活動を通して～

III 本事業の取組のポイント

豊後大野市は、連携型小・中一貫教育とコミュニティ・スクールを活用した学校間連携や地域・保護者との連携による教育の推進を特色として取り組みを進めている。今年度指定を受けている緒方小学校・中学校では、地域の学習サポーターや歴史民俗資料館の支援を得て、小中9年間を見通したカリキュラムを作成し、ジオサイト学習やふるさと学習に取り組んでいる。

緒方小・中学校における防災教育9年間のカリキュラムを作成し、防災マニュアルの改善を行う。また、緒方町学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を活用して有事の課題や対応について検討し、避難訓練等での実践に活かす。

緒方小・中学校の取組や研究成果をもとに、市内各学校の防災計画や防災マニュアル、カリキュラム等の見直しを行い、各町学校運営協議会の研究課題として防災教育の必要性について確認する。

委託事業終了後は、緒方小・中学校をはじめとした緒方地域の取組をさらに定着、深化させるために他町での研究も検討したい。

IV 本事業の経過と具体的な取組

(1) 授業実践

【5年防災教育提案授業 6月11日】

防災学習に取り組む導入として、「自然災害から、くらしや命を守るために、何をしたら良いか考えよう」について学習した。NHK for School 5年社会「自然災害から命とくらしを守る」を視聴した後、わかったこと、これからどうすればいいか考えたことを出しあった。



【1年防災教育提案授業 6月27日】

「防災ダックゲームを通して、災害から自分を守る動作について知ること」をめあてとして学習した。地震、洪水、雷、台風、火事などでとるべき動作や気をつけることを、おきたおきたゲームをやりながら理解させていった。

※防災ダック：幼児向け防災教育カードゲーム 日本損害保険協会



【4. 5. 6年防災教育出前授業 7月10日】

緒方町の地形の特色や過去の緒方町であった災害について、豊後大野市歴史民俗資料館の大野さん、吉岡さんに来ていただき、話を聞いたり動画を見たりしながら学習した。



【5・6年土木未来教室 9月28日】

大分県豊後大野土木事務所の多田さん、平さん、建設業協会大野支部のみなさんに来ていただき、土木についての学習を行った。土石流や土砂崩れ、地滑りなどの仕組みについて動画を使っての説明を聞いた。その後、模型を使いながら砂防ダム役割についても学習した。



【防災教育
授業公開 1
0月 29日】

(1) 3年防
災教育学習
指導案

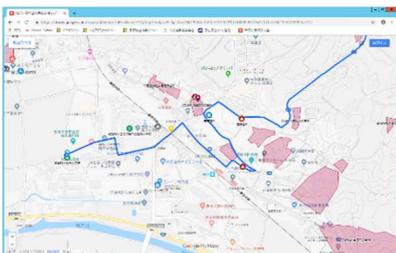
【Skype(スカイプ)を使った学習】

広島県東広島市役所の防災担当の方と Skype でテレビ電話をつなげて話を伺った。東広島市の被災状況や救助・復興支援についてや、Google my maps を使って情報提供した経緯、西日本豪雨での被災時の状況と市役所の対応について話を聞くことができた。子どもたちは「防災マップを作るのに重要な点は何？」などの質問を出していた。実際に被災した現地からの話は子どもたちの防災に対する関心を高めることができた。



【防災教育出前授業】

豊後大野市役所の防災担当の弓さんをお招きし、DIG（災害図上訓練）を行った。実際に災害が起きたことを想定し、どの経路を使って避難所まで行くか考えた。より安全な経路を探すためハザードマップと照らし合わせながら安全な道を探し、その後経路上に少しでも危険そうな場所はないか確認し印をつけたり、避難所の周りの情報を書き加えたりした。避難する際の安全な道を選ぶ訓練ができた。



※6年生がつくった防災マップ

(2)避難訓練

今年度は5月から毎月避難訓練並びに引き渡し訓練を行った。さまざまな状況を想定した安全教育や避難訓練を行うことにより、災害から身を守るための判断力や行動力を教職員と子どもと一緒に身につけることをねらいとし実施している。

【一斉下校 5月9日】

○ねらい

- ・大雨が降り一斉下校になった時の集合の仕方、下校の仕方がわかる。（児童）
- ・登下校時において風水害により危険が予想される箇所や児童が一人になる場所・周りに人気のない危険箇所などを子どもとともに把握することによって、風水害や不審者による誘拐などの被害の未然防止を図る。（教職員）

○成果と課題

スクールガードの方も交え実施した。それぞれの地区で下校指導並びに危険な場所の確認ができた。しかし、主な通学路の確認であり、児童一人一人の家までの通学路の確認はできなかった。



【地震避難訓練(一斉) 6月14日】

○ねらい

- ・地震に対して安全に身を守り、避難行動ができるようにする。(児童)
- ・通報や指示を正しく聞きとり、落ち着いてすばやく行動ができるようにする。(児童)
- ・地震の際の適切な避難誘導ができる。(教職員)

○成果と課題

一斉での避難訓練は何度も経験しているため、スムーズにできたが、一部おしゃべりがあった。

【台風・大雨による下校困難時の引き渡し訓練 7月20日】

○ねらい

- ・緊急時に保護者が迎えに来るまでの手順を理解し、冷静に行動することができる。(児童)
- ・緊急時、児童引き渡しの判断と方法を保護者と共有し、児童の安全を確保して保護者に引き渡すことができる。(教職員)
- ・緊急時、児童引き渡しの判断と方法を教職員と共有し、誰が学校に迎えに行くことができるのかを判断して、児童を確実に引き取ることができる。(保護者)



○成果と課題

当初引き渡し場所を体育館としていたが、災害時には避難場所になるために各教室に変更した。待ち時間が長いので、待機時間の過ごし方を考える必要がある。

平日だったので、保護者の参加は多くなかったが、教職員の引き渡しの訓練になった。

【休み時間の避難訓練(地震) 9月27日】

○ねらい

- ・休み時間、それぞれの場所でどのような危険があるか、またどのように避難すればよいかを考え行動することができる。(児童)
- ・避難時の児童の様子を把握する。(教職員)



○成果と課題

教職員は各場所に分かれ、避難誘導は最低限行い、避難の様子を録画し反省に役立てた。反省を行う中でたくさんの課題が見つかった。

- ①私語が多い。
- ②ダンゴムシのポーズがしっかりとれていない子がいた。
- ③最初の放送で、運動場の真ん中に集まってきた。
長い移動は必要ない。危険な場所から離れればよい。
- ④移動時に6年生が1年教室に確認に来ていた。(だれもいなかったが)
まず自分の命を守ることが大事。自分の周りの子への配慮・声かけでよい。
初めて休み時間の避難訓練を行なったが、不十分なことがたくさんあった。



【朝読書中の避難訓練(地震) 10月18日】

○ねらい

- ・児童だけで教室にいるときの避難のしかたを身につける。(児童)
- ・それぞれの場所から児童の安全を守り、臨機応変に避難誘導することができる。(教職員)

○成果と課題

職員の指示でなく、子どもたちだけで、「放送を聞き、並んで避難」ができていた。しかし、低学年を中心に、以下のような混乱もみられた。

- ・玄関でくつにはきかえる。
- ・帽子がかぶっていない子がとりに戻る。

自分の命を守るために優先することをしっかり理解させていきたい。

児童玄関で逃げる動線が交わり混雑した。



【避難訓練(火災) 12月11日】

○ねらい

- ・火災発生時の避難行動についての基本的な知識を身につける。また、火災発生場所により避難経路を臨機応変に考えなければならないことを知る。（児童）
- ・火災の際の適切な避難誘導ができる。（教職員）

○成果と課題

静かにすばやく避難ができた。避難訓練を繰り返し実施しているので、スムーズに避難ができるようになった。



【授業中の避難訓練(地震) 1月11日】 事前予告なし

○ねらい

- ・教室や特別教室、体育館等それぞれの場所からの避難のしかたと身の守り方を身につける。特別教室、体育館からの避難ができるように、教室以外の場所から避難する。（児童）
- ・教室以外の場所からの適切な避難誘導ができる。（教職員）

○成果と課題

特別教室からも静かにすばやく避難ができた。
事前予告していなかったが、混乱なくスムーズに避難ができた。



【朝読書中の避難訓練(地震) 2月21日】 事前予告なし

○ねらい

- ・児童だけで教室にいるときの避難のしかたを身につける。（児童）
- ・それぞれの場所から児童の安全を守り、臨機応変に避難誘導することができる。（教職員）

○成果と課題

子どもたちだけであったが静かにすばやく避難ができた。事前予告なしであったが、低学年も混乱なくスムーズに避難ができた。10月に見られた避難時の動線の交わりも解消できた。

【休み時間の避難訓練(地震) 3月11日】 事前予告なし

○ねらい

- ・休み時間、それぞれの場所でどのような危険があるか、またどのように避難すればよいかを考え行動することができる。（児童）
- ・自分がいた場所での確かな避難誘導ができる。（教職員）

V 成果と課題

IV 本事業の経過と具体的な取組 各項目ごとに成果と課題記載。